

「進級卒業を前にして」

園長 高杉美稚子

進級卒業を前にして、保護者の皆様も子育ての節目であろうかと思います。しかしどんな時も、目の前の問題に振り回されず、問題の奥底に有ることに心眼をむけ、1、体を抱きしめる、心を抱きとめる 2、自他共に愛されている実感をもつ、3、手や口を出さず、眼を離さず 4、育児は育自なり、などの「子育ての基本」を忘れないでいて頂ければ、子どもたちはしっかりと育っていつてくれるでしょう。親は、あとは見守るしかありません。「待つ姿勢」こそが、又、教育の基本中の基本だからです。

吉塚幼稚園での教育も、自由と規律を大切に、その年齢ごとに必要不可欠な教育、『ひとりひとりの個性を大切にした根作りの教育』を、将来を見据えた長いスタンスでとらえ、適時適量の刺激を考えたカリキュラムでプログ

ラミングし、だから『この時期に、この園の教育がこれだけ必要だ!』という確信のもとに、園児たちに体験教育を通して実践してまいりました。

きっと保護者の方もこの吉塚幼稚園で、子ども達と共に感動する、そのことが、自分の生きがい、自己成長になることを感じて頂けた事だろうと思います。

これからも、互いに、最終的に子ども達が、親が、教師が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が来るまで頑張りましょう。

これからも生きがいのある日々を共に過ごして参りましょう。子育ては苦しい時はあっても必ず夜明けはきます。そして振り返れば短くて二度とこない楽しい充実した日々であることは間違いありません。子どもたちは、5歳までの笑顔で一生分の親孝行は既に十分してくれているのだそうですから……。全て、大丈夫です。

年長組はもうすぐピッカピカの1年生、きっと期待で夢一杯の事でしょう。負担になる言葉かけは慎んで、子どもと共に、進級を喜んであげられるお母さんでいて頂きたいと思います。この機会に1年間で作った物を取り出しておしゃべりしたり、一緒に整理したりして、進級を楽しく迎えてほしいと願っています。ゆっくりお母さんと一緒にお風呂入って、今迄の幼稚園時代の事を振り返り、これからの小学校について語りあう事も、子どもにとって人生の節目である事を理解させるよい機会となる事でしょう。

この子がいるから親でいられる、教師でいられることに感謝しながら これからも、この幼稚園から50年、100年といつまでも大きなエールを送っています。

最後に、私の好きな言葉を贈り、今年度最後の園通信をお手元にお届けします。
どうしたら悩みから抜け出せるか、その11の方法についてまとめてみました。

悩みの出口に通じる 11の抜け道

① 考え込んで明日に持ちこしたところでどうしようもないことは出来るだけ早く解消する。これ以上悩まないために戦ってみる。夫の浮気など悩んでないではっきりさせる

③悩みに慣れる。

また始まったなと自分で認めてしまう。慣れてしまえば悩まない。

④悩みに対して開き直す。

素敵なお母さんになりたいのは誰でもですが『私は私』誰に何をいわれようが自分で認めてしまえば、皆、そこそこかわいく生きていけます。

⑤悩みをかわす

その人との間についたてがあると思う自分にとって大事でないことに過敏に悩むことは時間の無駄だと考える。

⑥悩みを据え置く。

とりあえず、明日考えるようにする。

⑦悩みにひたる

身近な人の死など涙かれるまで泣く。

心が元気を取り戻すまでには時間がかかるものだと思う。

⑧悩みをかみくだく

出来る所からやってみる。

⑨悩みを忘れる

いい友達がいれば忘れらる。

増幅させるような友達は持たない事。

⑩悩みを合理化する。→プラス思考

失敗は成功の元。すべて良い方向に考える。

⑪悩みに取り組む

自分がなにを考え、どうして
いきたいのか、そのためには、
今、何をしなければならない
か、悩みと真剣に向き合う。
それが悩みの王道です。

最終的には、いい人だと思われなくて、
つい自分らしさを忘れてしまう、うその
自分を装うことに問題があるといえ
ます。

素晴らしい自分になるために、日々研
鑽、努力することを、怠っては行けま
せんが、努力している自分を含めて『自
分らしさを好きになる』そして、『好き
になれる自分である』事が大切だと考
えます。

1年間、保護者の皆様と、勉強してま
いりましたが、少しでも子育てのお役
に立ちましたら幸いです。

私も、まだまだ子育て中の身、保護者
の皆様と一緒にこれからも勉強してい

きたいと思います。

終わりに

吉塚幼稚園の体験を通した教育の中か
ら『真の子どもたちの自立』を育んで
きました。教育とは簡単に言えば次世
代の人間を作り育てることと定義でき
ます。科学技術も社会も日進月歩で変
化していますから、常に新しい人材を
生み出さなければならないという大き
な役割が教育にはあるのです。

ですから、狭い意味での知識だけを教
えているようでは、変化する社会に対
応できません。知識は本を読めば簡単
に手に入る。それよりも得られた知識
を活用する能力と、積極的に自分と社
会を発展させていこうという態度を教
えることです。

自分の人生を切り開いていこうとする
積極的な態度の欠如、学力の低下、こ
うした問題は少子化社会でいっそう顕
著になるでしょう。なぜなら、子ども
の数が少なければ、皆同じでありたい
という圧力がますます強くなります。
そのため、積極的に独自性を生み出す
欲求が育たず、「ほどほど」を望む結果
になるからです。

その上、今の子どもたちは、何でもそ

ろっている環境に育ちました。

テレビも自動車も物心がつけば身近にあるのが当たり前で、誰かが苦労して作ったものだとか、親がお金をためて買ったものだという実感がないのです。そうすると、自分も大きくなったら何かを造らなければという意欲も沸いてきません。

意欲や積極性を養わない教育を受けた世代が社会に出ていけば、次の世代もそれに輪をかけた教育を受けることになる、そのことを見据えて教育に取り組んできました。

また、教育者、親とは自分の教えることに責任をとる、この一点につきます。教育の過程で知識が人間の血となり肉となり、人格を形成していくものだ、ということ子どもに見せなければいけない。これが大きな刺激になり、勉強への意欲が沸くのです。自分の正しいと思った教育を実践する。

でも、間違っっては行けないのです、その為に努力が必要です

吉塚幼稚園では、目先の事にとらわれない根作りの教育を、将来を見据えて、子どもたちにとって、今なにが大切かを考えて実践してきました。学童期を経て、やがて、成人したときにこの吉

塚幼稚園で得たことが、芽を出し実を結ぶものと確信しています。

この巻頭玄関のせめて、どれか1行でもその子育てのお役にたつことを願って今年度最後の得大樹通信をお届けいたします